

平成維新を実現する都民の会第38回運営会議議事録

※(敬称略・文責:杉原健児)

【日時】1998年8月7日(金) 18:40~21:00

【会場】新宿区立リサイクルセンター4階。

【出席】青木康三郎・板橋光紀・浦上登・大谷和夫・小俣一郎・近藤珠甲・佐藤鶴次郎・澤井正治・杉原健児・治田桂四郎・望月忠雄、以上11名。

【委任状】山崎康彦、他2名。

【配付資料】

- (1) 8月運営会議の議題案(治田)
- (2) 平成維新東京役員人事案(治田)
- (3) 今後の行事予定(治田)
- (4) 新ブレークスルー思考適応の考察(望月)
- (5) KANプロジェクト・FAXシート(小俣)
- (6) モンゴル民族音楽友好コンサート案内(治田)

【回覧資料】

いしん埼玉市民の会/平成維新千葉B.T./かながわ市民プレス/東海平成市民の会掲示板・ドリームランド/あしたの風・女たちの平成維新/大前研一通信(杉原)

【議事】(議長:治田)

【1】治田代表からの挨拶があった。

- (1) 平成維新東京推薦の小川敏夫氏大勝利のお礼。
- (2) 笹本弘子氏が7月19日朝入院。会の役は暫く辞退したいとの連絡があったとの報告があった。
- (3) 7月19日の総会で新代表に選ばれた。宜しく。

【2】前回議事録を確認、原案通り承認された。

なお、総会議事録について、小俣氏より一部修正提案があり、澤井氏が修正することとなった。

【3】会報編集について:

杉原より会報への寄稿、特に会則変更についての投稿要請があり、数人が寄稿を決めた。

【4】青木氏(一新塾4期生)より、市民政治研究会・NPOフォーラム・首都圏市民ボード等の説明と参加要請があった。

【5】浦上氏より、新宿まちづくりの会(市民中心の会)に参加しているが、平成維新と共通点も多いとの報告があった。

【6】各区活動報告:

<1区> 佐藤氏より報告:8月21日新宿オンブズマン準備会が開かれる。

<2区> 大谷氏より報告:7月23日例会出席9名。

<3区> 澤井氏より報告:7月18日例会出席6名。

<5区> 治田氏より報告:8月1日例会出席7名。

【7】KANプロジェクト特別委員会について:

小俣・杉原氏より活動経過と参加要請あった。

- (1) 6月28日~7月11日参議院選でのピラ配り。
- (2) 7月19日高田馬場駅南口ピラ配り9名が参加。
- (3) 今後について協議した結果、継続することとなり、まずは8月16日池袋西口で行うこととなった。多くの参加を望みたい。なお、呼び掛け現地対応の段取り等は、当分杉原が行うこととなった。
- (4) 委員等の確認→委員長:小俣一郎/委員:杉原健児・治田桂四郎・山崎康彦/協力委員:澤井正治・白瀬武美・杉本年成・門叶和雄・長妻謙三郎・松井一・望月忠雄。

【8】21世紀のライフスタイルを考える特別委員会
澤井副委員長より当分休職する旨報告があった。

【9】新役員等人事について

治田代表より報告・提案があり、
会報7月号<P.12>一覽表記載の通り決定した。

- (1) 相談役・副代表は、代表が選任し報告があった。
- (2) 担当役員・幹事・会計監査人・特別委員会委員長・首都圏市民会議担当は、代表が候補案を提示し、協議して決めた。

【10】新ブレークスルー思考の適用について

望月氏より表記件の検討結果の報告があり、協議した。海辺氏の協力について、大谷氏からの打診を含めて、今後更に検討することとなった。

【次回】第39回運営会議:1998年9月4日(金)
18:30~21:00 新宿リサイクルセンター。

「平成維新東京」の各種活動状況

【A】東京2区・7月例会議事速報(大谷和夫)

日時:1998年7月23日(木)18:30~20:25

場所:喫茶室ルノアール蒲田西口店

出席:溝端久興・仲田明子・池田静雄・阿部秀嗣・神村知行・直田正・杉本年成・渡辺明美・大谷和夫、以上9名

1. 出席者紹介

今回より開催日を第4土曜から第4木曜に変更し、出席者が増えた為紹介を行った。

2. 前回議事録朗読確認

3. 7月運営会議速報報告

4. 98年度総会報告

望月氏が議長となり、97年度活動報告は資料として配布し、会計報告は7月運営会議速報記載の通りで、新代表選出は治田桂四郎氏と山本竜司氏との間で選挙が行われ、治田桂四郎氏が当選した。又98年度予算が承認された。会名の変更については今後の検討事項となった。問題は会計上99年度への繰越が少なく、会員数を増やさない運営が困難になると予想されることである。

5. 道州制実現推進運動について

神奈川県平岡昭三氏がパソコン通信、ニフティのHEISEIフォーラムに出された「道州制の実現推進をマスコミ・政治家に呼びかける運動」について、全文を紹介自由討議を行った。

(1)(国民は今、大病に晒されています。)

省庁別に100項目の問題点が挙げられているが、本件に関連する自治省が抜けている。しかし中央集権と政官業癒着の鉄の三角形が良くないことは異論がない。又個々の問題点を追求していたら日が暮れてしまい、市民運動として焦点を絞ることは必要である。

(2)(自民党では、本当の改革はありません。)

日本の改革に必要な経済的規制撤廃が自民党では出来ないであろう。又日本各地域の経済規模からいって、中央集権で画一的に保護政策をやる時代ではない。しかし自民党の基盤の農村部受益層が規制撤廃を理解しているとも思えない所に一つの問題がある。

(3)(真の地方自治・独立とは、どんな形のものでありましょうか。)

「道州制」という言葉はまだ一般的ではない。「連邦制」の方が分かり易いのではないか。また、中央集権制から連邦制に移行した歴史のある国があれば、どのようにして移行できたか参考にした。徳川時代は連邦制といえるのかどうか?